

厨子入り木造弥勒菩薩半跏像 国宝

この精緻につくられた像は未来の仏陀である弥勒の像である。鎌倉時代（1185～1333年）につくられた木彫の像で、非常に保存状態が良い。光り輝く黄金の光背を背にし、複雑な衣や装身具によって飾り立てられている。そのうちのひとつは、車輪のかたちをしたペンダントであり、これは仏教の法輪を象徴している。

仏教の伝統によると、弥勒は仏陀釈迦牟尼の直接の後継者であり、56億7千万年後にこの世界に生まれ、次なる仏陀となる。この像では、弥勒は静かな瞑想の表情をしており、片方の足を台座から投げ出した半跏の姿勢をしている。これは、弥勒がまだ悟りを開いた仏陀の状態ではなく、衆生を救うために現世にとどまっているということを意味している。右手は、祝福と願いを叶える与願印のかたちで上に掲げられている。

この像が納められている厨子が、この像を光や虫、その他のダメージから何世紀にもわたって守り続けた。厨子の上部の近くには天上の楽人である飛天が描写されるなど、精緻な装飾が施されている。扉には法相宗の高僧や文殊菩薩、賢人の維摩居士、仏教の守護神である四天王などが描かれている。